

南国病院広報誌

第29号 2016年7月30日発行



つくし



日本医療機能評価機構認定病院
平成23年8月5日
審査体制区分2
Ver.6.0

■発行元■

南国市大涌甲 1479-3
医療法人つくし会 南国病院
Tel (代) 088-864-3137
Fax 088-863-3070
<http://www.nankoku-hp.or.jp>

病院機能評価受審を終えて

理事長・院長 中澤 宏之



夏本番を迎え疲れが溜まりやすい時期となりましたが、職員の皆様は日々の勤務に忙しい毎日をお過ごしのことと思います。去る6月27日、28日に皆様の協力のお蔭をもちまして病院機能評価 3rdG : Ver.1.1 の受審が無事終わりました。また、先日は中間的な結果が報告され、「補充的な審査」を必要としないいわゆる「合格」を頂きました。各領域の評価判定結果は概ね良好でしたが、いくつかの項目でB評価（一定の水準に達している）を認めており、今後の質改善の優先項目としたいと思っています。

今回、病院機能評価の更新受審に当たっては、何を目的に受審するのかについて、かなり以前より思いを巡らせておりました。5年前の初回受審時には、病院機能評価という初めての本格的な第三者評価であるという緊張感、電子カルテ導入前であり紙ベースの大量の書類作成をしなくてはならない負担感、求められる標準的な医療機能に対する知識不足などがあり、準備段階で一部の職員に負担が集中してしまう結果となりました。今回は、審査方法も変わりケアプロセス重視となったことから、当院の理念の一つである多職種協働のチーム医療をアピールできる良い機会であり、各部署の現場の皆さんが参加しての受審にしたいと思っておりました。私自身、ケアプロセスの代表症例を経時的に深く考察する過程で関わって下さった様々な職種との連携の仕方を改めて見直し、コミュニケーションを密にする大切さを再認識したと思います。受審当日には、練習の成果もあって各部署から積極的に発言をして頂きサーバイヤーへ一定のアピールができました。2日間の審査を通して感じたことは、当院の医療機能が一段と強化されていること、皆さんのチームワークが素晴らしかったことでした。

今後は各領域での指摘事項を精査し、優先順位をつけてひとつずつ改善を図りたいと思っています。これからも現場の皆さんの意見を反映し、患者さん、ご家族を中心に質の高い病院づくりに努力して参りますので、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

